

# ほこぶる



社会福祉法人

ミッドナイトミッションのぞみ会

乳児院 望みの門方舟乳児園

〒299-1607 千葉県富津市湊 705

TEL 0439-67-2131 FAX 0439-67-2134

URL <http://www.nozominomon.or.jp>

発行責任者 田尻 隆

編集責任者 高橋 明日香

2号 2009年12月1日

## クリスマスを迎えて

園長 田尻 隆

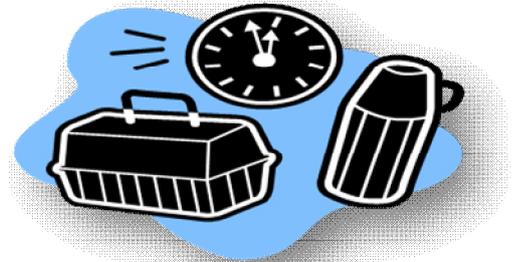
今年もまた明石家さんまのボン酢醬油のCMと共に師走を迎えました。新型インフルエンザの猛威にビクつく職員を後目に、はこぶねの子どもたちは健康を支えられ、みんな元気に過ごしています。ところで、世界中で最も有名な師走生まれの赤ちゃんといえば・・・そうクリスマスに生まれたイエス・キリストでしょう。

話しは変わりますが私が子どもの頃、学校が終われば友だちと草野球の毎日でした。集合場所の空地に行くためには線路を渡らなくてはなりません。ちゃんと踏切を渡れば良いのに、ちゃっかり草むらをかき分けて線路をまたいで近道をしていました。そうするうちに草むらだったところには、けもの道ができ上がります。こうなると近所の人たちも踏切を渡らなくなり、けもの道は自然と整備されいつの間にか自転車でも余裕で渡れるような立派な踏切が出来上がってしまうのです。

数年前、線路に自分で踏切をつくったおじいさんが威力業務妨害の疑いで逮捕されていました。このおじいさん畑に行くのに野菜を乗せた手押し車で遠まわりするのはしんどく、自分で踏切をつくったところ、近所の人たちも喜んで利用していたそうです。けれどある日突然逮捕されてしまったのです。さて、このおじいさん昔だったら逮捕されたのでしょうか？昔は「ルールは大切だ」と言いながらも、ホンネの部分で「そういう事情だ

ったらしようがない。大目にみよう。」となったはず。それでなければ私も立派な前科者です。なぜ現代人は大目に見ることができなくなったのでしょうか？今日ではインターネット等の発達もありいろいろな情報が瞬時に伝わります。すると「田舎のおじいさんが農作業に行くのに回り道がしんどいから自分で踏切をつくった。」という情報は「おじいさんが勝手に踏切をつくった。」という情報に端折られてしまうのです。すると「そんな前提を認めて、山手線に踏切をつくるヤツが出てきたらどうする？」なんて話になり、世間は「それを許せば、あれもこれも許さなくてはいけなくなる」という不安に駆られてしまうのです。「ルールはルールだけでも、いろんな事情もあるんだから現実的にやろうよ」というのと「事情はどうであってはめて、白黒はつきりつけよう」というのとどちらが良いのでしょうか。もっと当事者に寄り添うおらかさがあって良いと思います。

クリスマスに幼子としてこの世に生まれたイエス・キリスト。権力を持つ、王様や政治家・官僚としてではなく、自分では何もできない最も弱く、周りから愛される存在としてお生まれになった救い主です。だからこそ私たちの弱さ、罪深さをありのまま受け止め愛を注いで下さるのでしよう。まさにどこまでも当事者に仕えていく救い主の姿があります。世界中でお祝いされ、人々が喜びに満たされるクリスマス、私たちも当事者にしっかりと寄り添い仕える養育を目指したいと思えます。



9月24日

## 遠足（上総湊海岸）

まだハイハイしかできない子も連れて園から歩いていける距離にある上総湊海岸に遠足に行ってきました。

ハイハイの子は職員が抱っこし、歩ける子は歩こうということだったので、外にまだ慣れていなかったゆーちゃんやんは園の外に出てすぐ職員に抱っこをせがんでいました。しかし、だーちゃんとまーちゃんは自分の足で長い階段も一生懸命下りて、上総湊海岸まで頑張って歩いて行きました。

もう寒い時期にさしかかっていたので海の中に入ることはできませんでしたが、はじめて見る海なので、波に驚き、怖がりながら見



ていました。ずっと不安がっていたゆーちゃんも砂浜では砂場道具で職員や他の子たちと一緒に砂を掘ったり、山を作ったりして夢中になって遊んでいました。

昼食は日陰にシートを敷き、お弁当を広げてみんなで輪になってお弁当を食べました。外で食べるのが気持ちがいいからか、みんないつもよりもたくさん食べていました。

また、大人でも少し疲れてしまうような距離なのにもかかわらず、年長のだーちゃんだけは行きも帰りも自分の足で歩いていました。たくさん遊び過ぎてなーちゃんは寝てしまいましたが、寝てしまったなーちゃんもたくさん歩けただーちゃんもみんな、遠足が楽しくて仕方なかった様子でした。

子どもたちがのびのび楽しそうに笑顔で遊んでいるところや、いつもより少し頑張っているところを見て、小さな成長を実感しています。

10月31日ハロウィン



ハロウィンは、カトリックの諸聖人の日(万聖節)の前晩(10月31日)に行われる伝統行事です。諸聖人の日の旧称「All Hallows' Eve(前夜祭)である「ハロウ」から、Halloweenと呼ばれるようになった。

ケルト人の1年の終りは10月31日で、この夜は死者の霊が家族を訪ねたり、精霊や魔女が出てくると信じられていました。これらから身を守る為に仮面を被り、魔除けの焚き火を焚いていたとのこと。601年にローマ教皇グレゴリウス1世が宣教師にケルト人へキリスト教改宗の策として、「ケルト人の信仰法である木の伐採は行わずに、木の真上にはキリストの神様がいてそのために木を信仰し続けなさい。」と広めなさい」と言ったのがいまのハロウィンになったきっかけでもあると言われています。

ハロウィンのテーマは不気味なものや怖ろしいもので、妖精や精霊に限らず、「死」そのものや、不死の怪物、黒魔術、伝承の怪物などが含まれています。ハロウィンで仮装されるものには、幽霊、魔女、コウモリ、黒猫、ゴブリン、バンシー、ゾンビ、魔神、などの民間で伝承されるものや、ドラキュラやフランケンシュタインのような文学作品に登場する怪物が含まれます。また、カボチャを刻んで怖い顔や滑稽な顔を作り、悪い霊を怖がらせて追い払うため、ハロウィンの晩に家の戸口の上り段に置くようです。

当園では、室内を飾りつけし、子どもたちに職員の手造りのマントと帽子、仮面をつけて記念撮影を行いました。子どもたちは仮面をつけたがったり、マントをつけたがったりしていました。また、おやつ時間もそれぞれに帽子をかぶったままで食べたりと楽しそうに過ごしていました。



## 10月10日 運動会

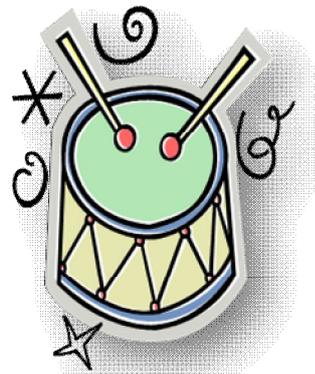
1歳以上の大きい子どもは法人内で行われた運動会（地域交流スポーツ大会）に参加しました。はじめ、たくさんの方が集まる場所に行った事のない子どもたちは人の多さや運動会の熱気に圧倒されたのか、表情も硬く、なかなか緊張がとれませんでした。少しづつ会場にも慣れ、職員と徒競争・紅白玉入れ・パン食い競争・ボール回しに参加しました。

徒競争では職員に手をひかれて一生懸命に走る姿をたくさんの方に『かわいいかわいい』と応援してもらい、なんとか走る事が出来ました。また、紅白玉入れ・パン食い競争・ボール回しも職員共々応援に励まされて楽しく参加することが出来ました。

とても楽しかったために運動会終了後に帰りたくなくてだーちゃん泣いてしまうほどでした。



11月3日



## かずさの里感謝祭

お隣の児童養護施設かずさの里にて感謝祭がありました。インフルエンザのこともあり、ぎりぎりになるまで当園児たちを連れていくかを検討していましたが、なんとかいけることになり、1歳以上の子ども4人と職員で参加しました。

感謝祭では、みなと幼稚園鼓笛隊の演奏や天羽高校合唱部と天羽中学吹奏楽部の演奏がありました。今回は時間があまりなかったためにみなと幼稚園鼓笛隊の演奏だけしか聞けませんでした。みなと幼稚園の鼓笛隊の演奏はとてもかわいらしく、見ていてとても癒やされました。また、幼稚園児がこんな上手に演奏できることにとても驚きました。小さいながらも一生懸命に練習し、頑張つて努力してきたのだなあと感動しました。子どもたちもみなと幼稚園のおにきさん、おねえさんが一生懸命に頑張っている姿をみて真似をしてくれたらなあと感じています。



感謝祭の出しものでは、バザーや模擬店ゲームなどがあり、子どもたちはまずゲームに参加しました。ゲームはまずヨーヨー釣り、その後には輪投げ、ダーツをしました。ヨーヨー釣りでは園児と一緒に紐をもち取りましたが、子どもよりも職員のほうが必死になってヨーヨーを釣っていて、4人で合計9つも持ち帰りました。輪投げとダーツの合計点数で好きなおもちゃをもらえるといたので、こどもたちはたくさんのおもちゃの前で嬉しそうに時間をかけて選んでいました。



感謝祭では子どもたちは初めての体験をたくさんしました。綿あめをはじめ見たので職員が綿あめをつまんで渡してもなかなか食べようとせず、職員が食べる姿を見てから恐る恐る口に運んでいました。すると綿あめがとても美味しかったようで、一口食べたあとからはとまらなくなっていました。



### 寄贈品・ボランティア ありがとうございました

子供たちのために温かいご協力をいただき、職員一同誠に有り難く感じております。ここに御礼を申し上げるとともにお名前を記載させていただきます。

東金教会 岡部秀子さま  
西千葉教会 松田保子さま  
千葉教会 弐持昭子さま  
曾子不動産 田山光子さま  
新保三枝子さま、榎原佐保里さま

### 編集後記

遠足やハロウィンなど子どもたちは今まで経験した事のないことを少しずつ経験できて、楽しそうにしていました。また、運動会や感謝祭などで他施設や地域の方々と触れ合うことができて職員も子どもたちも嬉しく思っています。これからもっとたくさんさんの経験を子どもたちにしていってもらいたいと考えています。地域の方々ともっと関わりをもつ事が出来たら…と切々と感じています。

今年はインフルエンザがとても流行しています。湿気の多い夏でも新型インフルエンザの勢力は衰えず、猛威をふるっていました。これからまた季節性のインフルエンザが流行る時期に差し掛かってきます。身体に気を付けてお過ごしください。

(A・T)

